

令和7年度 第1回 生駒市子ども・子育て会議 会議録要旨

日 時	令和8年1月31日(金) 15時30分～17時36分
場 所	生駒市コミュニティセンター 402・403会議室
出席委員	清水会長、三木副会長、中畑委員、松井委員、畠山委員、谷猪委員、大久保委員、辻中委員、末松委員、今川委員、嬉野委員
事務局	子 育 て 健 康 部 吉村部長、岡村次長 教 育 部 松田部長、南口次長 こども家庭センター 若狭所長 こども政策課 土井田係長、竹田係員、朝熊係員 幼保こども園課 牧野指導主事、長崎指導主事、春野主幹、澤野係長 こども園準備室 廣川係員 児 童 総 務 課 石田課長 健 康 課 渋谷課長
会議の公開	公開
傍 聴 者	2名

1. 開会

2. 委員紹介

3. 案件

- (1) 第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画の進行管理（令和6年度）について（諮問）
- (2) 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の定員変更及び第3期生駒市子ども・子育て支援事業計画の変更について（諮問）
- (3) 乳児等通園支援事業にかかる国の基本指針改正に伴う第3期生駒市子ども・子育て支援事業計画の変更について（諮問）
- (4) 乳児等通園支援事業者の認可及び確認について（諮問）
- (5) 生駒市こども計画の進捗について（報告）
- (6) その他

- (1) 第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画の進行管理（令和6年度）について（諮問）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

副会長

計画値と実績値の差異が大きかった事業についてどのように対応する方針か。

事務局

この度報告したのは第2期計画の実績値である。第3期計画の計画値については、第2期の実績値などをもとに設定しているため、差異は小さくなると見込んでいる。

委員

計画値が年々減っている事業は、ニーズの減少と人口減少のいずれの要因か。

事務局

事業ごとに異なるため一概には言えないが、多くの事業の計画値に人口動態が関わっている。

委員

養育支援訪問事業は計画値よりも実績値が低い。子育て短期支援事業の実績も減っているが、養育にかかる課題が解消傾向にあると考えてよいのか。

事務局

顕在化していないが課題を抱えるご家庭はあると考えている。令和8年度からは、子育て世帯訪問支援事業という新規事業が始まるので、事業間連携の中で必要な支援の拡充につなげたい。

委員

予算の確保は計画値に基づいていると思うが、計画値と実績値の差異が大きい場合に、予算の過不足は生じていないか。

事務局

計画値の設定にあたってアンケート調査の結果も考慮に入れており、一部の事業では、計画値と実績値に差異が生じているものがある。ただし、予算の確保は、実績を鑑みて行っているため、大きな過不足は生じていない。

委員

子育て短期支援事業では、施設側のキャパシティ等の関係で断ったがゆえに実績値に反映されていないケースもあるのではないか。

事務局

一部、施設内で感染症等が流行した場合に利用者が利用を辞退するようなケースもあるが、おおむね希望どおりの受け入れられていると認識している。

会長

事務局案を採用して答申とする。

(2) 奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の定員変更及び第3期生駒市子ども・子育て支援事業計画の変更について（諮問）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

委員

奈良佐保短期大学附属生駒幼稚園の定員変更を本会議に諮る理由は何か。

事務局

定員の変更は、子ども・子育て支援事業計画の計画値を修正する必要があるためである。計画の策定や変更にあたっては、本会議に諮ることとしている。

委員

勤務している職員の雇用は保障されるか。

事務局

幼稚園教諭の雇用は園児数の実態に即して実施されており、この度の定員数変更も園児数の経年変化を踏まえたものであるため、問題は生じていないと認識している。

会長

事務局案を採用して答申とする。

(3) 乳児等通園支援事業にかかる国の基本指針改正に伴う第3期生駒市子ども・子育て支援事業計画の変更について（諮問）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

委員

本事業は、集団生活になじむことが目的の一つだと聞いたが、急にクラスに入ることで、子どもや現場の先生が混乱しないか。また、こどもの様子は保護者と面談し説明されるのか。

事務局

事業の実施方法は事業者が決める。通常のクラスに入れる場合、別の教室で専任保育士が保育する場合など、様々な実施方法が想定される。事業趣旨を鑑み、別室保育の場合でも、在園児と交流するなどの試みを園の判断により実施できる。

委員

保育現場の声はどのように制度に反映されていくか。

事務局

これまでも様々なご意見がある。実施していきながら、公立・私立園の園長が集まる合同園長会等の機会を活かしながら課題を共有し、進めていきたい。また、課題の内容によっては、国に意見を届けることも可能である。

委員

新規事業を実施することによる現場の負担感の増加が考えられる。保育士不足の中、人材の確保にどう対策していくか。

事務局

「資格を活かそう相談会」の他、保育士を目指す学生に生駒市の保育士の魅力を発信するなど、保育士資格を持ちながらも現在保育現場で働いていない潜在保育士の確保や採用に注力している。他市の事例もみながら取り組んでいきたい。

会長

事務局案を採用して答申とする。

(4) 乳児等通園支援事業者の認可及び確認について（諮問）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

実施事業者が特定の地域に偏っていないか。

事務局

待機児童が多いエリアは、本事業の実施が難しい実情がある。比較的待機児童の問題が少ない北地区の園が多い。

委員

あすか野幼稚園では、通常3～5歳児の保育を行っていると思うが、実施可能なのか。

事務局

ほふくエリアを敷物で仕切るなど、安全面を考慮しながら運営方法を固めていく必要があると考えている。

委員

園ごとの空き枠をどのように確認すればよいのか。

事務局

国が提供するシステムを使って空いている施設を検索できる。

会長

事務局案を採用して答申とする。

## (5) 生駒市こども計画の進捗について（報告）

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

副会長

こども向けアンケートの中で、「とても不幸」という選択肢を設けることで、こどもの心理状態がラベリングされてしまうことを懸念する。

委員

小学生が「幸せ」や「不幸」という概念を理解することや自身の状態を10段階で評価し答えることは難しいのではないかと懸念する。

委員

小学校4年生～中学校3年生だけがアンケートの対象なのか。

事務局

15歳～29歳でこどもがいない方向けの若者向けアンケートもとっている。小学校3年生以下のこどもについては、自分自身で読んで答えるのが難しいアンケートであるため、4年生以上を対象としている。

委員

こどもがアンケートに回答することで、日常のなかの幸せを実感するという効果を持たせることもできる。この観点から、設問の順番などを再考してはどうかと考える。

## (6) その他

### ①幼稚園再編に係る基本方針について

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

委員

なばた幼稚園の施設の一部を民営の保育園の分園として活用することは、保育方針の相違等の観点から現実的ではないのではないかと懸念する。活動の区分けはどのように考えているか。

事務局

なばた幼稚園の園児数が減少し集団での活動が難しいことから、育ちを確保するための対策の一つである。活動の区分けについては、原則として別々に活動しつつも、一例として、行事を一緒に行うこと等が考えられる。奈良市でも同様のケースがあり、保育園の分園を卒園した後に、幼稚園に接続するケースもあるようだ。

②公立幼稚園にかかる今後の検討事項について

(事務局より説明)

(委員からの意見・質問)

なし

5. 閉会